

代表取締役
高屋 雄介

10代で防水工事業界に入る。その後、一時業界を離れるも、20歳で復帰し、独立を目指して腕を磨く。26歳で結婚を機に独立して個人事業主となり、30歳で法人化を果たした。2016年で独立から10周年を迎え、現在は10人以上のスタッフを率いる組織の長として活躍している。



良き職場環境が、良き仕事をつくる チームで成長を続ける防水工事業者

防水工事や外壁洗浄工事などを主に手がける（株）高屋シーリング。社長を務める高屋氏はチームの和を大切に、スタッフが安心して働ける環境を整えてきた。リーダーとして会社の成長を第一に考える真っ直ぐな社長のビジョンに、女優の矢部美穂さんが迫った。

Guest Comment>>>

矢部 美穂（女優）

対談中は「スタッフが大好きなんです」という言葉が自然に出てきて、社長が心からスタッフさんのことを大切に思われているのが伝わってきました。プライベートではボランティア活動としてフィリピンの身寄りのない子どもを引き取っていらっしゃるそうで、自分のできることで少しでも社会に貢献されようとするその姿勢に社長の男気を感じました。



自立の転機となった出会い

矢部 まず、高屋社長が防水の道に進まれたきっかけから教えてください。

高屋 地元の先輩が防水工事会社に勤めていて、「社員旅行でハワイに行ける」という話を聞いて17歳で就職しました（笑）。つまり最初は仕事そのものに魅力を感じていたわけではないんです。

矢部 しかし、今ではこの業界で会社を立ち上げるほど仕事に打ち込んでいらっしゃいます。転機はあったのですか？

高屋 20歳の頃に一度、防水工事の仕事から離れたことがあったのですが、その時期に心から尊敬できる方と出会えたんです。それまでの私は言いたいことは何でも言うてしまう短気な性格で、素行

も良くありませんでした。しかしその方との良い巡り会いをきっかけにお釈迦様の教えなどを聞き、それを受け入れられたことから、少しずつ我慢強さが身に付いていって——そこで、自分を変えてくれた先生のようになりたいたいと思うと同時に、人を育てたいという目標も生まれたんです。防水工事の仕事に復帰した時には、すでに独立を考えていました。その後26歳で個人事業主となり、30歳で法人化を果たし、今に至ります。

矢部 転機となった出会いから、順調に成長されてきたのですか。

高屋 最初は2人だった組織が、今ではグループで25人の規模になりました。皆を支えたい使命感が良いプレッシャーになり、仕事量も増え続けているんです。

スタッフが安心して働ける会社に

矢部 最近はどうな現場を手がけていらっしゃるのですか？

高屋 改修工事や新築工事など防水に関わる工事を幅広く手がけており、その中でメインとなるのはマンションやビルの大規模修繕ですね。多くの人が住んでいる建物は、社員のマナー教育にも繋がります。部屋のベランダに入る時や、居住者の方とすれ違う時など、挨拶をする機会がたくさんありますからね。

矢部 スタッフさんへの指導も、社長が先頭に立ってされているのですか。

高屋 とはいえ、皆がしっかり成長してくれたおかげで、最近は私があればこれと言わなくても現場を任せられるようになってきました。何か問題が生じた時にも、私が頭ごなしに叱るのではなく、「皆で話し合おう」というスタンスを大切にしているんです。お客様からご指名頂いた現場やスタッフが困っている現場に顔を出しつつ、一歩引いた立場から会社全体を見るようになってから、私自身、冷静になったという実感があります。

矢部 社長から信頼されていると感じれば、スタッフさんのモチベーションは自然と上がるでしょうね。

高屋 そうであれば嬉しいです。やはり、仕事は楽しくできるのが一番ですから。スタッフとのコミュニケーションも密に取るようにしていますが、プライベートの相談で自分だけでは答えられないと思った時は、信頼の置ける番頭に任せる



ようにしているんです。

矢部 そのように社員同士でも上の人が下の人の面倒を見る環境があれば、良い成長のサイクルが生まれそうです。

高屋 私は、この組織をきちんとした会社にしたと常に考えているんです。残念ながら、この業界にはお金にルーズだったり、社会保険が整備されていなかったりという会社が依然として存在します。そんな中で、弊社は当たり前のことを当たり前にし、スタッフが安心して働けるよう、社会保険、雇用保険を全員に付けるなど、できることがあればすぐに実行に移しています。

矢部 高屋社長は、スタッフさんのことを本当に大切に思われているんですね。

高屋 その分、時には厳しいことも遠慮なく言いますが（笑）。ちなみに、昨年は社員旅行でマカオに行きましたので、そういう経験をさせてあげられて良かったなと思います。

矢部 オンとオフの切り替えをしっかりとっていらっしゃるからこそ、日々の仕事も楽しめるのでは？

高屋 ええ。防水工事の現場は、自分の技術を競い合う一面があるんです。いかに早く、きれいに仕上げるか。今でも現場に出た時は、スタッフと張り合うのを楽しんでいます。ただ、負けたくないと思う反面、育てた社員の技術が自分を上回るのもまた、嬉しいことなんですよ。

矢部 職人と経営者、両方の顔をお持ちなのですね。今後も、やはり現場第一線でやっていかれたいお気持ちですか？

高屋 この仕事が大好きですから、もちろんその気持ちはありますが、やはり経営者として、会社を大きくしていきたいですね。目標は、10年で自社ビルを持つこと。自分についてきてくれたスタッフの頑張りに応えるためにも、しっかりと給料を払い、彼らが結婚、子育てと、きちんとした将来設計ができる会社にしていこうと思います。



Company Data>>>

株式会社 高屋シーリング

〒176-0013
東京都練馬区豊玉中 3-21-8 1F
TEL 03-6914-5782 / FAX 03-6914-5030